

平成26年度研究成果報告書《平成25・26年度教育課程指定校事業》

| | | | | | |
|---------------------|--|------------|------|------------|----------|
| 都道府県・指定都市番号 | 65 | 都道府県・指定都市名 | 北九州市 | 研究課題番号・校種名 | 5(4) 中学校 |
| | | | | 領域名 | E S D |
| 研究課題 | 新学習指導要領の実施を踏まえた、学校全体での教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究 (4) E S Dを学校全体で体系的に推進するために、各教科等の連携により、持続可能な社会づくりに関わる課題を見いだし、それらを解決するために必要な能力や態度を児童生徒に身に付けさせるための指導方法等に関する実践研究 | | | | |
| ふりがな 学校名 (児童生徒数) | きたきゅうしゅうしりつはやともちゅうがっこう 北九州市立早鞆 中学校 (231人) | | | | |
| 所在地 (電話番号) | 福岡県北九州市門司区清見三丁目13番1号 (093-321-3788) | | | | |
| 研究内容等掲載ウェブサイト URL | http://www.kita9.ed.jp/hayatomo-j/ | | | | |
| 研究のキーワード | 重視する能力・態度 「心の育ち」 人権教育 環境教育 キャリア教育 E S Dカレンダー | | | | |
| 研究成果のポイント | (1) 荒れた学校から立ち直るために行われてきた「心を育てる」本校教育活動を、E S Dの視点に立って分析することで、「心の育ち」への有効性を確認することができる。 (2) 活動ごとの「心の育ち」の特徴を把握し、「育てたい心」の焦点化を図る指導計画を作成して実施することにより、効果的に生徒の変容を促すことができる。 (3) 各教科等の年間指導計画に、E S Dの視点に立った学習指導で重視する能力・態度を組み入れることで、E S Dカレンダーとして横断的な教育課程を編成できる。 | | | | |

1 研究主題等

(1) 研究主題

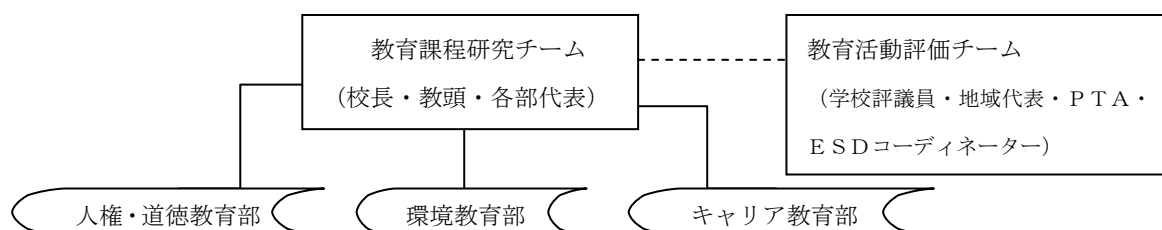
E S Dの視点に立った「心の育ち」を支える教育活動の推進

(2) 研究主題設定の理由

- ① 数年前までの荒廃した学校状況を改善し、学校を甦らせてきたこれまでの「心を育てる」教育としての取組を、E S Dの視点に立った教育活動として再構築することによって、将来的にも持続可能な社会づくりを担うことのできる生徒を育成したい。
- ② 学校がユネスコスクールとして、E S Dの理念を核として地域と連携することで、生徒により一層郷土愛や自尊感情、活動意欲を高め、課題解決に必要な能力・態度を身に付けさせたい。

(3) 研究体制

【研究組織】



(4) 2年間の主な取組（斜字は、生徒による、あるいは生徒対象の具体的な取組例）

| | | | |
|--------------------|--------------------|--|--|
| 平成 25 年 度 | 4月 | 校内研修①...研究計画の確認，各部詳細計画作成 | |
| | 5月 | E S Dカレンダー（総合的な学習の時間年間指導計画）作成 3年；修学旅行 2年；保育体験学習 花植え活動 キャリア教育講演会 | |
| | 6月 | 校内研修②...E S Dの視点について共通確認とアンケート実施 1年；ふれあい合宿 小・中合同花植え | |
| | 7月 | 学期末校内報告会...アンケート結果報告 | |
| | 8月 | 校内研修③...各部会におけるアンケート分析会と今後の取組の確認 | |
| | 9月 | 校内研修④...講師招聘（国研担当官），ユネスコスクール認定式 | |
| | 10月 | 小・中合同研修会...講演会，情報交換会 1年；環境学習 2年；農村宿泊体験学習 花植え活動 早稲伝承太鼓 | |
| | 11月 | 市内ユネスコスクール交流会 JICA研修員との交流会 小・中合同地域清掃 | |
| | 12月 | 校内研修⑤...研究授業会，講師招聘（国研担当官），学期末校内報告会 地域もちつき大会への参加 | |
| | 1月 | 校内研修⑥...中間まとめ（研究協議会発表内容検討，中間報告書作成） | |
| | 2月 | 研究協議会発表(東京)，2年次計画検討，教育活動評価チームへの説明会 花植え活動 | |
| | 3月 | アンケート実施，アンケート結果分析，2年次計画作成 校内研修⑦...1年次の成果と課題をまとめ，職員間での共通認識の醸成 1年；創作絵本を用いた小学生への読み聞かせ | |
| | 平成 26 年 度 | 4月 | 校内研修⑧...2年次研究計画の確認，各部作業内容確認と詳細計画作成 キャリア教育講演会 |
| | | 5月 | 校内研修⑨...E S Dカレンダー（各教科と総合的な学習の時間年間指導計画）作成 3年；修学旅行 |
| 6月 | | 実践研究...E S Dの視点に立った活動とアンケートの実施，実践事例授業 JICA研修員との交流会 2年；保育体験学習 花植え活動 キャリア教育講演会 | |
| 7月 | | 校内研修⑩...実践事例作成のための共通理解，実践事例授業 教育活動評価チームへの説明会 小・中合同花植え | |
| 8月 | | 校内研修⑪...研究紀要作成のための検討会議 | |
| 9月 | | 校内研修⑫...教育活動評価チームの評価を受けて，実践事例授業 | |
| 10月 | | 研究紀要原稿作成 1年；環境学習 2年；農村宿泊体験学習 3年；地域調べ 花植え活動 早稲伝承太鼓 小・中合同花植え「咲かせよう！早稲の花」 | |
| 11月 | | E S D研究発表会開催（国研担当官による講演会実施） 小・中合同地域清掃 | |
| 12月 | | 人権授業実施 地域もちつき大会への参加 | |
| 1月 | | 校内研修⑬...最終まとめ（研究協議会発表内容検討，報告書作成） | |
| 2月 | | 研究協議会発表(東京)，次年度計画検討，教育活動評価チームへの説明会 1年；創作絵本を用いた小学生への読み聞かせ 花植え活動 | |
| 3月 | | 校内研修⑭...研究の総括と次年度計画作成 | |

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

○教育活動で育つ心を，E S Dの視点に立った独自の評価方法で見取ることにより課題を見出し，その解決のための手立てを考え，新たな活動につなぐ。

< 1 > **活動とその分析**→学校の荒れを克服してきた教育活動を，E S Dの視点に立って分析する。

< 2 > **「心の育ち」の評価**→学校教育目標や持続可能な社会を担う人間像から「育てたい8つの心」を設定し，各活動後の分析から活動を評価し，成果や課題を見つける。

< 3 > **課題解決のための手立て**→分析・評価によって見えた課題を解決するための活動を仕組む。

< 4 > **教育課程の中のE S D**→これまでの指導計画の中にE S Dの学習指導で重視する能力・態度を伸ばすための活動を組み入れる。

< 5 > **E S Dの継続と発展**→これまでの教育活動をユネスコスクールとしての活動に結び付ける。

(2) 具体的な研究活動

(1年次)

<1>これまでの教育活動についてのESDの視点での分析

- ① これまでの教育活動を人権・道徳教育、環境教育、キャリア教育の三分野に分け、それに対応した研究組織とした。
- ② ESD視点表の「能力」「態度」を12項目に分けて行動指標化した「自己評価シート」を作成し、研究前後の生徒の状況を調査・分析した。

<2>ESDの視点を用いた、活動後における「心の育ち」の評価の検討

- ① 「心の育ち」に求める「育てたい8つの心」を、学校教育目標や「持続可能な社会を担う人間像」を基盤に、「感謝の心」「自律の心」「奉仕の心」「協同の心」「思いやり」「郷土を愛する心」「自然や環境を大切にする心」「いのちを大切にする心」として設定した。
- ② 各教育活動後、「育てたい8つの心」のうちの「高まった」と思うものについて答える自己評価を行わせた。
- ③ 活動を計画する際、ESDの視点に立った「ねらい」を設定し、事後の生徒自己評価と比較し、活動の有効性を検証した。

(2年次)

<3>見えてきた課題を解決するための具体的な手立ての工夫

- ① 活動後の分析が示す「自律の心」「郷土を愛する心」についての高まりが低いという課題に対して、3学年で「JICA交流」と「地域調べ」の活動を企画した。このうち、「地域調べ」では、自分たちが暮らす門司港地区にある紹介したい場所を取り上げ、情報誌やインターネットで情報収集した後、現地に出かけて観光客やお店の人にアンケートやインタビューを行った。さらに、集まった資料を門司港紹介リーフレットとして製本し、文化学習発表会では活動内容紹介のプレゼンテーションを行った。この取組によって他の活動ではあまり高めることができなかった「自律の心」や「郷土を愛する心」の高まりを引き出すことができた。
- ② 様々な教育活動に、適宜「育てたい8つの心」を意図的・計画的に仕組むことで、バランスのとれた「心の育ち」を達成することができた。

<4>ESDが「見える」教育課程の編成（ESDカレンダー）

- ① 各教科等の年間指導計画の中に「ESD」の項目を作り、ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度を明示し、一覧表にすることで、各教科等の連携に役立つようにした。例えば、保健体育2学年の保健分野「健康と環境」単元の学習では、理科の気温、体のつくり、二酸化炭素の性質などの既習事項に触れ、また、社会科の地理分野や1学年の総合的な学習の時間で調べた北九州市の環境問題を活用し、生徒の既習事項と関連付けた、ESDを常に意識した指導を展開した。生徒からは、「参加」「多面」「協力」の項目を中心に感想が書かれており、環境学習の掘り下げにつながった。
- ② 総合的な学習の時間の年間指導計画を人権・道徳教育、環境教育、キャリア教育、その他に分け、3か年の「心の育ち」を見通した体系的な計画に作り変えた。

<5>ESDの継続と発展を目指す取組

- ① 本校教育活動をユネスコスクールの活動として位置付け、ESD継続の素地を築いた。
- ② 小・中連携した活動や地域行事への生徒参加など、学校内の活動から地域・家庭での活動に拡大した。

3 研究の成果と課題

(1) 成果

- ① 荒れた学校を立ち直らせた「心を育てる」教育活動の中に、E S Dの視点に立った学習指導で重視する能力・態度の変容を確認できた。そのことにより活動によって高められる能力・態度を「心の育ち」と考え、各活動で「育てたい8つの心」について、生徒に自己評価させて変容を見取った。ここでE S Dの活動評価方法として、ポートフォリオ評価と共に、敢えて「心の育ち」を数値化し結果の可視化を行ったことで、各活動の特徴が見え、活動の評価、工夫改善に活用することができた。「育てたい心」の設定は、各学校の実情や学校経営方針に基づいて自由に工夫できるので、その汎用性を確信するに至った。
- ② 平成26年度は、総合的な学習の時間等における年間指導計画のE S Dカレンダー化に加え、各教科の年間指導計画においてもE S Dの視点を盛り込んだものを作成し、全教育課程のE S D年間指導計画を作成した。各教科や道徳、総合的な学習の時間、特別活動の年間指導計画を、E S Dの視点を取り入れて実践することにより、指導における教師の意識が「教材のつながり」「人のつながり」「能力・態度のつながり」に向けられ、生徒自らの意思決定を高めた教育活動にすることができた。
- ③ ユネスコスクールへの加盟登録や本研究指定により、生徒、教職員、保護者、地域に、E S D推進拠点校としての役割を認知させることができた。また、これまでの花植え活動、人権教育、各種体験活動、地域活動や小・中連携事業などを、未来へつなげる活動として価値化することができた。現在本校の状況（いじめや非行、不登校生徒が少ない。遅刻生徒がいない。給食残食率がほぼ0%。落ち着いた楽しい雰囲気での授業。90%を超える部活動加入率と大会の好成績。あいさつ運動、環境や花づくり、学生新聞等における数々の表彰。保護者・地域からの信頼。）が良好であることも、E S Dの実践によるところが大きい。そして何より、学校経営の中心にE S Dの理念を据えることができたことは最大の成果であった。

(2) 課題

2年間の研究の中で常に目標としてきたところは、生徒自らが、具体的な課題の発見・探究・解決の過程で、持続可能な社会づくりに値する価値観を身に付け、自らの意思を決定し、行動を変革していくことであった。しかしながら、まだまだ教師の役割は大きく、その自己変革への指導体制は十分とは言えない。特に、各教科のE S Dカレンダーの実践は、教科横断的な連携の研究はまだこれからと言ってよく、教科部会議など時間を十分にとって研修・協議し、教師間の共通認識を高める必要がある。

(3) 指定期間終了後の取組

本校の「心を育てる」教育活動を、E S Dの視点に立った「心の育ち」を支える教育活動として推進してきたが、今後も学校経営の方向性としては何ら変わるものではない。ユネスコスクールとして他校とのネットワークを充実させ、さらに小・中連携や地域活動を進めるなど、今年度実施した「小・中合同地域花植え」や「地域清掃」などの活動を根付かせていきたい。また、各教科におけるE S Dの視点を盛り込んだ年間指導計画（E S Dカレンダー）を充実させ、さらなる活用方法を研究していく。E S Dカレンダーについては、教育委員会の協力を得て、本校のみならず、市内全小・中学校のスタンダードとしての普及に尽力したい。各学校ではさまざまな教育活動が実践されているが、その多くがE S Dの活動要素を含んでいる。校長をはじめ教職員がさらなるE S D推進の視点をもつことで学校は活性化すると確信している。